
嘘の町

イツミン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘の町

【コード】

N0985J

【作者名】

イシミン

【あらすじ】

全てが嘘なら確かめる だけど本当は・・・？

きつと嘘、きつときつとみんな嘘。

彼が嘘、彼女が嘘、君も嘘。自分が誰だか、証明できる？

嘘嘘嘘、嘘をつくってくだらない。

でもみんな嘘、純情そうなあの子も嘘。

だって口元歪んでる、本当は笑ってる。

だってここは嘘の街。

いつからか、分からなくなってきた。

回りを見terると、分からなくなってきた。

ずっと信じてたものに裏切られた。

それが原因。

疑心暗鬼。

自分が嫌になっってくる。

ちょっとだけ、ちょっとだけ人を信じる気になった。

でも、やっぱり嘘だった。

私、きっと人を見る眼がない。

でも自分が嫌いだから、自分を疑った。

そう、そうだよ。みんな騙し合いなんだ。

嘘ついてんだ。

また、人を見る目が変わった。

分からなくなった。

先生の言ってることだって、なんだか嘘っぽい。

歴史の教科書って嘘っぽい。

歴史の本に載ってる、歴史上の人物のしたことって、その人の教え子が作った嘘が多いってTVが言ってた。

ほら見なさい、本なんて嘘。

だからってTVも信じない。

TVニュースで流れてきた、私の両親の事故死。

嘘だ、絶対嘘だ。

私が一人になってしまったなんて嘘。

今居るところが親戚の家なんて嘘。

死んだ両親はニセモノ。こっちがホンモノ。

よく見てよ眼が似てるでしょ？

だから、何も感じない。

葬式で泣かなかつたら「強いね」って言われた。

何で？

あの人たちは嘘の両親。

死んだところで関係ない。

それでも同情誘って泣けって言っの？

そしたらTVに映るかな？

【悲劇の少女両親死亡】とかって。

本当は両親生きてるけど、このくらいの嘘なんでもない。

だって嘘って騙される方が悪いから。

なぜなら生きるとは騙し合い。

騙して、騙されて。

何が悪いの？

みんな嘘ついてるじゃない！！

私は騙された、だから騙すの。

悪いことしてないよ。

みんな正しいの。

国だって国民を騙したよ、戦争に負ける前の日まで、ラジオで日本は勝ってるって言ってたんだって。

見回せば嘘だらけ。

本当の事言ってる保証ってないでしょう？

ここは嘘の街だから、私みたいな女の子は出歩くのも危険。

でも私は街を歩くの、人を騙すために出歩くの。

人を騙して付き合わせて、騙して物を買わせるの。

私、普通じゃないよ。

普通の嘘つきじゃないよ。

この前、ちょっとした嘘を同級生の子に言ったの、そしたらその子死んじゃった、自殺しちゃった。

あのくらい、ちょっと疑ってかかれればすぐ嘘って分かるのに、ひよっとして信用してたのかも、馬鹿よね。

そんな事考えながら、少し笑ってしまった。

私って悪魔かも。

いや、違う。

私が悪魔なら、他にもいっぱいいる事になるもの。

私って冷静かも。

でも本当は自分に嘘ついてる。

だって、得にならない事憶えてるから。

自分に嘘ついて、一生懸命得にならない事憶えてる。

だってテストがあるの、月に一回のペースで。

テストって意味ないって私は思うんだけど、いい点とったら先生が誉めてくれから、勉強してるの。

でも、先生のあの笑顔も多分嘘。

疑ってらきりがなくなってきた。

どれが本当？

どれが嘘？

部屋を出るとき手をかけたドアノブ、もしかしてこれも嘘？

通ってる高校に本当に私は在籍してるの？

私は本当に私なの？

私の名前は何？

今はいつ？

現実なの？

「嘘」なの？

知ってる人が亡くなった。

身近な人じゃなかったんだけど、亡くなったあとで、街で歩いてるところを見掛けた。

「死ぬ」って、ひょっとして嘘なのかも。

ううん、きつと「死ぬ」って嘘。

じゃあ死まない？「死ぬ」が嘘なら死まないの？

首をつつても？

手を切つても？

胸にナイフを突き立てても？

海や崖に飛び下りても？

人は死なないの？

犬や猫のようにはならないの？

分からないから。

今度崖から飛んでみよう

(後書き)

偽善ばっかじゃイカンと思った

新作を書かないとイカンとも思った

相変わらず昔の作品ばかりUPしてんのよね、ほんとに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0985j/>

嘘の町

2010年10月12日03時46分発行